

# 萬國通私法

若山儀一譯述

上

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

|      |       |
|------|-------|
| 分類部  | 號     |
| 地理學部 | 門     |
| 除    | 國際私法部 |
| 139冊 | 次     |
| 37冊  | 冊     |
| 分類部  | 號     |

T1A1

23

W 28

卷山儀一譯述

# 萬國通私法

紀元二千五百三十四年

時中齋藏版

萬國通私法目錄

卷上

第一篇

各國殊法之事

一各國通法之事

第二篇

一別遇法之事

一各地法之事

第三篇

萬國通私法

卷上目錄

時中齋藏版

國外不通法之事

第四篇

一 權令之事

一 法上關聯之事

第五篇

一 本貫及住址之事

一 實子本貫傳子本貫之事

一 入籍者人ニ同權ヲ與フルヲ得ル事

一 所生本貫擇住本貫之事

第六篇

一 古法今法出訟之處ヲ異ニスル事

第七篇

一 入國遵法之事

第八篇

一 浮財實產之事

卷中

第九篇

一 審判綱要

第十篇

一 審判五法

舊國通志卷之十一 甲 甲 甲

甲 各人權分之法

第十一篇

一前編續

乙 物件之法

第十二篇

一前編續

丙 義務之法

卷下

第十三篇

一前編續

丁 繼嗣之法

第十四篇

一前編續

戊 親屬之法

上男女婚媾之法

中父母之權

下保人之權

第十五篇

一法式之事

第十六篇

舊國通志卷之十一 目錄 三 寺中齋

結尾

補遺部

一 シウエス、ラチニ、及ペレグリニノ事

一 ガウエルカイインドノ事

一 引銀單之事

目錄終

小引

凡ソ萬國通私法ノ本旨ハ、内外人民ノ別ヲ立テ  
ス、雙方負、所ノ義務ヲ完成セシムルニ在リ、夫義  
務ハ必ス其負フ所ノ人ニ影從ス、若シ之ヲ完成  
セサレハ、到處之ヲ強ウ、而ノ能ク人ニ義務ヲ完  
成セシムルハ、同情ノ訟ヲ聽ニ、必常ニ均一ノ審  
斷ヲ為スニアリ、若シ日本審廳ニオイテモ、能ク此  
理ヲ解シ、萬國通私法ノ意ヲ執行セハ、文明開化  
ノ各國ト齊等ノ交義ヲ結得ルヲ跂テ俟可シ、蓋  
義務ノ語タル、汎ク之ヲ解スレハ、人ノ必シモ為

不當キ所ノ義務ヲイフ、民ノ其邦國ヲ守ル、其政府ノ命令ヲ奉スル、即其民ノ義務タリ、政府ノ境内ノ民ヲ保護スル、其訟ヲ治ムル公平ナル、即其政府ノ義務タルカ如シ、而シテ萬國通私法ノ所、所謂義務トハ、專ラ人民互相ノ約束ヨリ出ル所ノ義務ヲ指ス、今我某人ノ為ニ、某事ヲ為スラ約スルトキハ、我某人ニ之ヲ為スヘキノ義務ヲ負ヒ、某人我勞ニ報インント約スルトキハ、某人亦我ニ報酬スヘキノ義務ヲ負ヒ、我人ニ物ヲ貸セハ、其人之ヲ我ニ還スノ義務ヲ負フ等ノ如シ、是即亦此編

ニ論スル所ノ義務ナリ、蓋シ義務ニ離ルヘカラサルノ事、三アリ、

其一 故因、是雙方約束ヲ結フノ原始ナリ、譬ハ、我人ニ我カ為ニ某事ヲ就サハ、報酬ニ某物ヲ以テセント約スルトキハ、則我此發約ト、彼ノ報酬ヲ要スルト、即某事ヲ始ムルノ故因タルカ如シ、

其二 關約之夥人、是約束ヲ結ヘル雙夥ヲ指ス、

其三 目的、是素故因アリテ起ル者タリ、

凡ノ百般ノ義務、必ス其之ヲ完成セシトスル所  
ノ地法ニ合ハスレハアラス、若シ之ニ違ヘハ、審  
廳其訟ヲ問治セス、故ニ譬ハ紐育ノ人、日本ニ於  
テ阿片ヲ交付スヘキノ約ヲ某人ト結フトキハ  
此約法ニ合フトセス、何トナレハ、阿片ヲ販賣ス  
ルハ、日本國法ノ禁スル所ニシテ、此約束之ヲ目  
的トスレハナリ、是ヲ以テ、若シ紐育ノ人此約ニ  
背クモ、某人之ヲ紐育ノ訟庭ニ控告スルヲ得ス、  
是他ノ理ナシ、日本ノ審廳、此告狀ヲ問治スヘカ  
ラサルヲ以テナリ、若シ然ラスシテ、紐育ニ於テ

此約束ヲ勒行セシメ、日本ニ於テ勒行セシメサ  
ラシニハ、是同一ノ訟ヲ治ルニ、殊異ノ審斷ヲ以  
テスルナリ

約束モ亦之ヲ結フノ兩夥、各相當ノ人タラスシ  
ハアラス、故ニ譬ハ、一夥狂人タルカ、或ハ未タ成  
丁タルノ年庚ニ至ラサル者ナレハ、約ヲ結フヲ  
得ス、蓋シ人其本貫ノ法ニ於テ已ニ其能力ヲ有  
スル者タレハ、行ク處トシテ、其能力ヲ存スルヲ  
得サルナク、若シ之ヲ有セサル者タレハ、到處約  
ニ入ルヲ得サルヲ通規トスレハナリ

凡ク約束ヲ結フノ人、其成ニ背クトキハ、其財産ヲ以テ違約ノ損害ヲ償ハシムルヲ通法トス、而シテ人ノ本貫ハ、概ノ其終生ノ住址タルヲ以テ、其財産ノ所在亦通シテ此處ニ在リトス、今欠者成ニ背クヲ以テ、債主之ヲ他國ノ審廳ニ控告シ、審廳之ヲ斷シテ、欠者ノ財産ヲ賣テ欠項ヲ償フヘシトセンニ、若シ其欠者、本貫ノ法ニ於テ未タ人ト約ヲ成スニ適スルノ人ト認メサルトキハ、則本貫ノ審廳ニ於テハ、之ヲ違式ノ負債ト做シ、欠者ノ財産ヲ賣テ其欠項ニ充ルヲ許サ、ルヘシ、

是約束ヲ結フノ兩夥共ニ適當ノ人タラサルヘカラサル所以ナリ、而シテ人ノ約束ヲ結フノ適不適ハ、概シテ其本貫ノ法之ヲ定ムルモノトス、凡ノ人ノ權ヲ受ルノ能力モ、亦其本貫ノ法之ヲ管理ス、故ニ今某國ニ本貫ヲ有スルノ人、其財産ヲ他國ニ散有スルトキハ、死後之ヲ承受スルノ人ヲ定メ、其分配ノ事ヲ限ルモ、亦某國法ニ據ルヲ通規トス、若シ他國ノ法ヲ用フルトキハ、其財産所在ノ國毎ニ、殊異ノ審判ヲ為サ、ルヲ得ス、右掲載スル所ノ例ヲ以テ、人應ニ此萬國通法ノ



本旨ハ、凡世普通ノ規則ヲ設ケ、義務ヲ勒行セシメ、人權ヲ保存スルニ在リ、又其學タル、百般關商ノ事、各種人民ノ權ヲ職トシテ講明スルニ在ルノ大要ヲ得ヘシ、抑此法タル、百法中ノ至美至公ナルモノナリ、何トナレハ、其多々無數ノ規則、皆個ノ正義公道ニ源セサルナク、其汲々追求スル所ノ事、咸ク萬民ノ信義ヲ勸奨スルノ外他ナケレハナリ、蓋シ凡世洽及ノ則ナクシハ、茲ニ萬國普通ノ法無ルヘシ、而ノ其定規素唯假設臆想ニ出テ、正義公道ニ根セスハ、凡世ノ民之ヲ通用

スルニ至ラサルヘシ、

蓋シ此通私法中ノ最要緊ト為ス所ノ者ハ、他國ニ於テ其完成ヲ期スルノ約束ヲ一國ニ於テ結フ者アレハ、之ヲシテ其權理義務ヲ決定スルニ、必ス其完成ヲ期スル所ノ地法ニ甘服セシムルニ在リ、故ニ人一日モ他國ノ境ニ入ル、必ス其禁ヲ問ヒ、其令ヲ奉セサルヘカラス、

今夫日本ノ人、他邦ノ領事等ニ兩民ノ爭訟ヲ審判スルノ權ヲ委スルハ、自其政府ヲ卑辱スルナリ、如此キハ、他邦ノ民皆聽シテ言シ、凡ソ日本國

中、一モ正義公道ノ理ヲ解スル人ナシ、故ニ外民ノ權利ヲ保護スルニ適セスト是自然ノ勢ナリ、抑歐米文明ノ各國ニ於テハ、嘗テ他邦ノ領事ヲシテ、治訟ノ事ニ關ラシメシナシ、唯文明半開ノ國、陀日土、巴兒巴利諸國ノミ、其權ヲ他邦ノ領事ニ委ス、故ニ陀日土ノ如キ、國中一個ノ襲世貴族ナク、往昔ヨリ其民、皆觀テ以テ奴隸ト倣サル、此蔑辱ヲ蒙ルノ久キ、國人咸ク其自ラ重ニスルノ志ヲ失シ、敵慨ノ氣地ヲ拂テ盡キ、之ニ加フルニ汚辱ヲ以テスル百方ナルモ、終ニ其怒ヲ發ス

ルヲ見ス、潤淙ノ弊此極ニ至ル、誠ニ恐ルヘク、亦懲ムヘシ、

夫萬國通私法タル、其素各國同權ノ論理ニ基ク、故ニ凡ソ人ノ義務權利ハ、最貧最弱ノ國ニ於テ之ヲ負ヒ、之ヲ得ルモ、尚最富最強ノ國ニ於テセラルモノト一般ト為ス、故ニ貧弱ノ國ニ於テ禁止スル所ノ條件モ、亦凡世ニ對シテ、之ヲ禁止スルヲ得ルナリ、各國ノ確法即成文律ハ、治者ヨリ、被治者ニ布ク所ノ令ヲイフ、故ニ其為ス當シト令スル所ハ、民之ヲ

為サ、ルヘカラス、其為ス可ラスト令スル所ハ、  
衆之ヲ為スヲ得ス、而ノ他邦ノ民其境ニ入レハ、  
亦其令ヲ字ラサルヲ得サルナリ、何ヲ以テ之ヲ  
謂フ、蓋シ各國政府ノ權、皆齊等一國ノ政府、他國  
ノ政府ヲ越テ、政上特權ヲ施行スルノ理ナケレ  
ハナリ、故ニ古來曾テ世ニ萬國普通ノ確法ナシ、  
若シ其之ヲ要スルニ方ツテハ、各國ノ政府、互ニ  
其立ル所ニ甘服シ、之ヲ共通流用スルニ在ルノ  
ミ、但浮財寶産ノ別ヲ立ルニ至テハ、各國、稍其適  
導スル所ヲ殊ニスルヲ觀ル、即米、英ノ兩國ニ於

テ浮財ノ上ニ此通法ヲ應用スルヲ、家力ヲ極ム  
ルカ如シ、

嗟呼夫日本ノ人、此通法ヲ解スルニ至ラスンハ、  
其國、殷富強盛ノ商國ト成ル能ハス、亦世上各國  
ノ間ニ立テ、其本然ノ地位ヲ有ツ克ハス、日本  
天皇、亦外國代理者ノ阻間ヲ放除シ、敬テ百綱ノ  
源、百義ノ根ト仰カル、克ハス、又其審廳モ亦内  
外人民ノ義務ヲ勒行セシメ、權理ヲ保存セシム  
ル克ハシ、

凡ソ萬國通法ノ類、分レテ二トナル、曰ク、公法、曰

ク、私法是ナリ、其共ニ本ク所ノ理ニ曰ク、凡ソ各  
國、皆自主ノ權ヲ有ス、此權ハ内外ヲ問ハス、盡ク  
其境ニ入ル所ノ衆民ニ及スヘシト、而シテ此權、名  
ケテ特立主裁ノ權ト為ス、特立主裁ノ權、亦分レ  
テ二トナル、一ヲ境内自主ハ權、一ヲ及外主裁ノ  
權トイフ、夫國、他國ノ為ニ制セラレス、能ク之ト  
同等ノ條約ヲ結フトキハ、及外主裁ハ權、其國ニ  
存ス、國、能ク其臣民ノ上ニ至大ノ權ヲ施行シ、法  
制ヲ立テ、審廳ヲ設クルトキハ、境内自主ハ權全  
シ、若シ國、其臣民ト其境ニ入ル所ノ民ノ為ニ、法

ヲ立ルノ權ヲ有セスシハ、内ヲ守リ、外ヲ防ク克  
ハス、

蓋シ境内自主ハ權ハ、必シモ外邦政府ノ之ヲ認  
ムルヲ要セス、故ニ日本ノ如キ、近年其港ヲ開テ、  
交ヲ外ニ結フノ前ト雖モ、能ク此自主ノ權ヲ存  
セリ、又高麗ノ如キ、僻シテ支那東北ノ一隅ニ在  
リ、其自主ノ權、曾テ歐米諸國ノ認メサル所ト雖  
モ、尚存スルカ如シ、  
及外主裁ノ權ハ、國若シ通商ノ國タラント欲ス  
レハ、必ス喫緊須要ノ需トナル、而シテ其功力ヲ施

使スル、法ヲ得スシテ、唯其用ヲ國民ノ上ニノミ  
畫ルトキハ、外邦之ヲ認メス、其權隨テ辭シ去ル、  
今日本ノ如キ、外國未タ其特立タルヲ認メサル  
ノ間ハ、其權全然無事ニシテ存スト雖モ、已ニ交  
ヲ外ニ開キ他邦、其及外ノ權ヲ認ムルヨリ以來、  
外國領事ニ彼特異ノ權ヲ賜フニヨリ、遂ニ其境  
内自主ノ權一分ヲ失ヘリ、曰ク、然則、何ヲ以テ、此  
權ヲ恢復セシ、曰ク、彼萬國通私法ヲ施行スルノ  
審廳ヲ立ルニアリ、曰ク、縱令、審廳ヲ立ルモ、其坐  
ヲ充ルノ人ナキヲ如何、曰ク、今二三賢能ノ審司

ヲ要聘シ、其審廳ノ長タラシメ、之ニ属スルニ少  
壯、能ク法ヲ學フニ適スルノ人ヲ以テシ、黽勉課  
ニ就カシメハ、數年ヲ出テスシテ、必ス多ク堪能  
ノ審司ヲ生スヘシ、

抑商國ノ常ニ賢能ノ審司ヲ生スル者ハ何ゾヤ、  
蓋シ商常ニ富ヲ殖シ、禮文智識必ス富ヨリ生ス、  
ハハナリ、是ヲ以テ商國ハ、其政必美、反亂隨テ希、  
其民恒ニ務ニ忙シク、不平ヲ鳴シ、禍亂ヲ企ルノ  
遑ナケレハナリ、

歐洲諸國ノ中、商ヲ怠ルノ國ハ、常ニ變亂ニ罹リ、

商ヲ務ムルノ國、多クハ此禍ヲ免ル、佛蘭西ノ如キ百年以前マテハ、交易ヲ務ムルノ國ニ非ス、西班牙波蘭土ノ如キモ、亦商國ニ非リシナリ、凡ソ是等ノ國、民心常ニ定マラス、反側子隨テ出テ、變亂續テ起ル、然ルニ、英、蘭ノ如キ、此害ヲ免レタリ、商ヲ務ルノ益、以テ觀ルヘシ、

和蘭ノ國、久ク歐洲ノ寶庫ト稱セラレタリ、其殷富憶フヘシ、又長ク英ト海上ノ權ヲ爭ヘリ、其強力察スヘシ、彼萬國通私法ノ原理ヲ初テ發揚セシモ、亦其國ノ法家ニ係ル、何

ソヤ、其商ヲ務ムルナリ、其廉直ヲ尊フナリ、其工作ヲ勉ムルナリ、此三者、終ニ此富強開明ヲ致セリ、但其究ニ英ニ競フ克ハサルモ、其國ノ資産、昔ヨリ英ノ夥キニ及ハサレハナリ、

近年、米國內亂ノ如キモ、其禍源ハ最モ闇昧ニシテ、商事ヲ事トセサル、南部數州ノ人民ヨリ萌セルモノニシテ、北部ノ商ヲ務ムル諸州ノ民ハ、常ニ法ヲ愛シ、令ニ遵フナリ、其商ヲ務ムルノ益亦以テ觀ルヘシ、

抑商國ノ民ハ、必ス萬國通法ノ理ヲ解ス、若シ之ヲ解セサレハ、交易ノ事罷ム、而メ方今之ヲ實際ニ行ブノ國ハ、唯歐、米ノ中、數文明國ニ畫ルノミ、ウイートン氏曰ク、萬國通公法ハ、唯常ニ歐羅巴洲、及其人種ノ移住セル、文明ノ耶蘇教國ニ疆レリト、顧フニ、此謾語、今將ニ東方ノ國ニ對シテ言フヘカラサラントス、何トナレハ、則日本ノ如キ、近頃纔ニ各國ノ交會中ニハルト雖モ、其開進ノ迅速ナル測ルヘカラサルモノアリ、今ノ勢ヲ以テ之ヲ觀ルニ、其安富尊榮ヲ成ス所以ノ理、制即萬國通

私法ヲ立ル、東方諸國ニ於テ、第一著ノ地ヲ占ムヘシ、若シ今ノ方向ヲ變セス、一足ニ其到處ヲ求ハ、

必ス應ニ、歐、米各國ノ眠ヲ醒スニ足り、且其國ヲ萬國ノ上ニ位スルニ勝ユルモノアルヘケレハナリ、

凡此小冊子ニ述ル所、一モ余カ發明ニ出シモノナシ、但其原理ヲ了解シ易カラシメンカ為ニ、舉例引證ニ至テハ、聊カ、余カ考思ヲ勞セルノミ、若シ尚其詳密ヲ悉サント欲セハ、宜クフィルモール、ウエストレイキ、サウエニール氏等カ萬國通私法スト

リリー氏カ各國治訟異論等ノ書ヲ參觀スヘシ、  
一千八百七十三年七月日、於紐育州、ブロッケン  
為辱友若山儀一君誌　ロベルト、ヂョストウシ

萬國通私法卷上

合衆國狀師ロベルト、ヂョストウシ　筆授

日本東京　若山　儀一　譯述

第一篇

各國殊法之事

剖判ノ後、國土ノ分ル、ヤ久シ、民、其語ヲ同クセ  
ス、國、其俗ヲ異ニス、是ヲ以テ、其民ヲ治ムルノ法、  
亦各其趣旨ヲ殊ニス、若シ盡ク其例ヲ引カハ、枚  
舉ニ遑アラサルヘシ、今其二三ヲ陳列シ、以テ其



要領ヲ得セシム、

夫何國ニ於テモ、尚弱者、以テ人ト約束ヲ為シ、義務ニ鞅掌スルヲ得ス、而ノ其尚弱ヲ限ルノ期、亦各相異リ、英、佛、米ノ三國ニ於テハ人生レテ二十一歳ニ至レハ、尚弱ノ期盡テ、初テ成人ト齒スルヲ得、普魯斯ニ在テハ、二十四歳、羅馬律ヲ用ルノ國ニ在テハ、二十六歳ヲ其限トス、

歐羅巴洲ノ中、某國ノ法、如德亞教宗ノ人ニ土地ヲ有スルヲ禁セシアリ、

英ニ於テハ婦ノ財産、盡ク其夫ノ有タリ、米國紐

育邦ニ於テハ夫、其妻ノ有ヲ擅ニスルヲ得ス、但妻自ラ之ヲ賣リ、或ハ之ヲ其好ム所ノ者ニ與フルヲ得、

某國ニ於テハ婚姻ノ禮、法教ノ式ニ由ラサルヲ得ス、某國ニ於テハ單ニ之ヲ男女間ノ約束ト看倣シ、雙方ノ好相合フウエハ更ニ一ノ禮式ヲ用フルヲ要セス、

遺念ノ法ノ如キ、各國大ニ其様ヲ異ニス、貸借ノ利子ニ至テハ、帝ニ各國輕重アルノミナラス、米ノ如キハ各邦大ニ厚薄アリ、蓋シ各國ノ

確法即成文律ハ、年々、世々其變換ニ係ルヲ以テ、今年ノ法ニ於テ許可セラル、所ノ約束、明年之ヲ為スヲ禁セラル、アリ、故ニ一法ニ從テ為ス所ノ約束、其法ノ廢セラル、後、數年ニシテ之ヲ完成セシヲ要スルアリ、繼嗣受産ノ法、嫁婦ノ權等、最多ク其變易ニ會フ、是帝ニ殊國異邦ノミナラス、同邦同治ノ間ト雖モ、問治ノ牴牾ヲ生スル所以ナリ、而メ各國各州ノ異法ヲ照較シ、往前現今ノ殊律ヲ斟酌シ、正當ノ理ヲ以テ、内外國民ノ訟ヲ判シ、公平ノ道ヲ以テ、治下治外ノ民ヲ處シ、互

ニ其權理ヲ相侵凌セシメサルハ、即獨立國體ノ基本、交易ヲ通シ、各國ト交ルノ要訣ニシテ、抑又、此編ニ解述スル所ノ真意ナリ

各國通法之事

今夫英國ノ法、日本ノ律、全ク相異ト雖モ、日本人、英人ト約束ヲ為ストキハ其審廳ニ控白シテ、之カ完成ヲ討ムルヲ得ヘク、英國人ノ日本人ニ於ルモ、亦然リ、能ク日本審廳ニ出テ、其完成ヲ要ムルヲ得ヘシトス、若シ兩國ノ政府、此事ヲ聽サスシハ、其民互ニ貿易通商スル克ハシ、又或ハ婚

親娶嫁ノ故ヲ以テ、人一國ヨリ他國ニ至ルヲアラシニ、動モスレハ、其本源純一ノ人權ヲ超越スルヲアルヘシ、之ヲ要スルニ、人若シ法上關聯ノ故ヲ以テ、他國ノ管理ヲ受ルニ至テハ、其所生國法ノ許ス所ノ權理モ、他國審廳ノ取捨増減スル所ニ任スヘキノミ、

夫一國ニ於テ、結フ所ノ約束、之ヲ他國ニ於テ完成スルヲ要スルヲアルヘク、爭訴フル所ノ財産、法ヲ異ニシ、且地ヲ異ニセル處ニ在ルヲアルヘク、原告被告ノ兩夥、共ニ外邦ノ人タルヲアルヘ

ク、又一夥ハ、治下ノ民ニシテ、他夥ハ、治外ノ人タルヲアルヘシ、此時ニ方ツテ、其訟ヲ聽クノ要務ハ、其約束ヲ結フ所ノ地ト、其内民外人タルヲ問ハス、唯何レノ國法ニヨリテ之ヲ裁判スヘキヤヲ考案シ、應當ハ審斷ヲ為スニアルノミ、若シ夫然ラスシテ、同情ノ訟ヲ聽クニ、各國ノ審廳、擅ニ其區處ヲ異ニスルトキハ、爰ニ審判ノ標準ト為ル者無ルヘシ、但之ヲ斷スル均一ニシテ、初メテ之ヲ正當公平トイフヘキノミ、

蓋シ正當公平ノ審判ヲ為サントヲ務メハ、當ニ

他國ノ法律ヲ識認スルノミナラス、彼是人民ノ  
訟ヲ決スルニ方テ、能ク是ヲ我國法ト、共通應用  
スルニ在リ諸文明ノ國ニ在テハ、今皆此事アリ、  
之ヲ名ケテ互法共通トイフ、下ニ數條ノ例ヲ舉  
テ以テ其義ヲ明サン、

夫米國紐育邦ニ於テハ、借錢ノ利子、元金、百ニシ  
ラセテ贏ヲ法トシ、加里蒲尼亞邦ニ於テハ什ノ  
一、或ハ是ヨリ尚重ク收ムルヲ得、今某甲、紐育ニ  
於テ某乙ニ錢ヲ借り、同慶ニ於テ之ヲ償還セシ  
テ約シ、而後某乙、居テ加里蒲尼亞ニ移シ、期至

ルモ、甲約ニ背キテ、償還セス、乙之ヲ其地ノ審廳  
ニ告ルトキハ、其廳之ヲ斷シ、甲ヲシテ本錢ノ外、  
分セノ利子ヲ償ハシムヘシトス、是甲乙始成約  
ヲ期スルノ地、紐育ニ在ルヲ以テ、其利子ハ、其地  
法ノ許ス所ニヨリテ之ヲ收メシムレハナリ、又  
若シ某甲、加里邦ニ在リ、某乙ニ錢ヲ借り、而後移  
テ紐育ニ來リ、期至ルモ約ヲ全クセス、之ニヨリ  
テ同所ノ廳ニ告ラル、トキハ、其廳甲ヲシテ、加  
里邦法ノ許ス所ノ利子ヲ收メシムヘシ、是其期  
約ノ地、加里邦ニ在ルヲ以テナリ、若シ或ハ某甲

他國ニ移住シ、曩ノ負債ノ為ニ其審廳ニ告ラル  
、モ、其廳之ヲ斷決スル、尚前例ニ於ルカ如クナ  
ルヘシトス、

凡ソ紐育ノ法、女人ニ嫁スルノ後モ、尚自ラ其財  
産ヲ有スルヲ得、英法ニ於テハ、婦ノ財産、盡ク其  
夫ノ有トナル、故ニ若シ英國ノ女出テ、紐育ノ  
人ニ嫁スレハ、其有スル所ノ浮財ハ、依然トシテ  
自ラ之ヲ有スルヲ得、又紐育ノ女、英人ノ婦トナ  
ルトキハ、其浮財ハ、紐育ニ在ルモノト雖モ、概シ  
テ、皆其夫ノ有トナル、蓋シ、嫁婦ノ權ハ、其夫ノ本

貫ノ法ニ依テ限定セラルヘキヲ以テ、甲ニ在テ  
ハ、紐育ノ法ニ遵ヒ、乙ニ在テハ、英法ヲ奉スヘケ  
レハナリ、

又若シ日本ノ人、其財産ヲ英、佛、米等ノ諸國ニ散  
有スル者アリ、其死ニ濱スルニ方、遺言シテ之  
ヲ其親戚ニ分與シ了リ、其後、三國ニ於テ其財ヲ  
争フ者アリ、訴起ルトキハ、三國ノ審廳、先其人遺  
言ヲ為スノ式如何ヲ問質シ、其式能ク日本ノ法  
ニ合フニ於テハ、之ヲ認メテ亦其國法ニ合フト  
做シテ審斷スヘク、若シ日本國法ニ合ハスンハ、

亦是ヲ其國法ニ背クト倣シテ區處スヘシトス

## 第二篇

## 別遇法之事

別遇法トハ、異種ノ人、域外ノ民ヲ待ツノ法ニシテ、專ラ文明未開ノ國ニ行ハル、即北亞墨利加ノ野蠻、亦謂印度人ノ間ニ此法アリ、往昔日耳曼人ノ遊獵ヲ專ラニシテ、常居ヲ定メサル年代ニ此法行ハル、又佛蘭屈人、倫貌児土人等、伊太利ニ勝テ、其地ヲ畧セシトキ、二國治下ノ民ハ、各其固有ノ法ヲ以テ之ヲ御シ、伊太利ノ土著ハ、尚羅馬律

ヲ以テ之ヲ制セリ、又所謂耶蘇教國ト稱スル、歐洲各國ノ中ニ於テモ、亦稍近世ニ至ルマテ、尚如德亞宗教ヲ奉スルノ人ヲ視テ別種ノ民ト倣シ、之ヲ治メタリ、又合衆國ニ於テハ、輒近南北分争ノ後ニ至ルマテ、黑人ヲ苛制スルノ法行ハレ、纔ニ黑人ノ血統タルヲ皮膚ニ徵ハス者アレハ、之ヲ認テ非類トナシ、更ニ人タルノ權ヲ有セシメス、又今ニ至ルト雖モ、都兒格ニ於テハ尚判然ト、別遇ノ法ヲ立ツ、

東印度、及亞細亞諸國ニ於テハ、上古ヨリ別遇ノ

法アリ、異邦ノ人、其地ニ至レハ、之ヲシテ其民衆ノ間ニ交ラシメス、且其遺ス所ノ子孫ニ至ルマテ、其父祖ト同ク永ク認テ羈旅ノ外人ト做ス、尚且東印度ニ於テハ、印度種、回々教種ノ別アリ、種人各其固有ノ法ヲ遵奉ス、

昔羅馬ノ世ニ於テ別遇法ニ似タル者アリ、其民等屬ニ從ヒ稟ル所ノ權利ヲ殊ニス、即其シウスハ、無疆ノ權利ヲ受ケ、ラチニハ、其權利稍輕ク、ペレグリニハ、外國人及羅馬ノ府中ニ本貫ヲ有セサル者ヲ指スノ名ニシテ、更ニ法ニ於テ許ス所

ノ權ヲ受ルヲ得ス、右別遇法ハ、唯其之ヲ立ル所ノ國ニノミ行ハルヘクシテ、他國ノ政府ニ於テハ、之ヲ容認通用スルヲ許サルナリ、

譯者曰ク、羅馬ノ等屬ヲ別ツテ、下卷補遺ヲ參看スヘシ、

### 局地法之事

局地法トハ、一局地方ノ中ニ立ル所ノ法ナレトモ、前法ノ如ク、人種ノ別、等屬ノ分ヲ為ステ少ク、外國ノ民ヲ保護スルヲ尚治下ノ民ノ如ク、且外國ノ法律ヲ容認シ、其審判ヲ要スルニ方テハ、之

ヲ通用スルヲ許スナリ、是ヨリ各民同視各法同  
通ノ語アリ、若シ此同視同通ノ事ナクンハ、一國  
ニ於テ結フ所ノ約束、他國ニ於テ之ヲ完成セシ  
ムルヲ能ハシ、

蓋シ此法タル、素其局地ノ民ヲ保護スルカ為ニ  
設クルヲ以テ、一州一郡ノ間ニアリテモ、屢互ニ  
抵觸スルヲ多シ、夫英國ニ於テハ、唯其長子、父祖  
ノ遺産ヲ受ルヲ普通ノ法トス、然ルニ、ケン  
ト郡ニ於ルカ如キハ、二子三子ト雖モ、齊ノ遺産ヲ受  
ルヲ得、之ヲガウエルカインドノ法トイフ、又倫

敦習俗法ト名クルモノアリ、英國普通ノ法ト異  
ナリ、

譯者曰、ガウエルカイントノ法ノ事下卷補遺  
ヲ參看スベシ

日耳曼ニ於テハ、其協同各國、互ニ其法律ヲ異ニ  
セシハ論ナク一國一郡一邑一府ノ間ニシテ、其  
局地法千殊萬異ナリ、即「ドレスロウ」府ニ於テハ、  
一千八百四十年ニ至ルマテ、同府ノ中ニヒテ繼  
嗣ノ事、嫁婦ノ有等ニ就キテ五箇ノ異法アリキ、  
而ノ此等ノ法、每街之ヲ異ニセシアリ、或ハ每家



之ヲ殊ニセシアリ、尚且一屋ニシテ二箇別法ノ  
行ハル、境界上ニ立ツトキハ、其家ニ住スル者、  
一半ハ一法ニ遵ヒ、一半ハ他法ヲ奉セサルヲ得  
サリキ、

米合衆國ノ如キハ、數多ノ獨立邦ヲ集メ成レル  
ヲ以テ、各邦互ニ特異ノ法律ヲ以テ、其民ヲ管轄  
ス、邦又數邑數府ニ分レ、亦各其法ヲ立ツ、故ニ邦  
法、動モスレハ國法ト異リ、邑法邦法ト殊ニ、府法  
邑法ト差アリ、

是ヲ以テ凡ソ一國、或ハ同治ノ間ニシテ此ノ如

キ法律ノ牴牾ヲ統理スルカ為ニハ、左ノ規律ヲ  
以テ總則ト做スタ得、

凡ソ一國ハ中ニシテ、其局地ハ法區々異ナルハ  
ルニ、方テハ、總國、或ハ全州ハ、法例中、全ク相反乖  
セル條目ヲ載スルニ非レハ、宜ク各局地ハ法ヲ  
採用スヘシ、

譯者按スルニ、府民ハ、府法ヲ守リ、邑民ハ、邑法  
ヲ奉スヘシト雖モ、若シ其府邑ノ法、全州或ハ  
轄國ノ法ト牴牾スルトキハ、州國ノ法ニ從ハ  
サルヲ得サルカ如シ、近ク之ヲ我國ニ取テ譬

ウレハ、東京府下ノ民ハ、東京府ヨリ發スル所  
ノ布令ヲ守ルヘシト雖モ、太政官ヨリノ布令  
ト其趣意異ナルモノアレハ、宜ク太政官ヨリ  
スル者ニ從フヘキカ如シ、而シテ人民ノ訟ヲ聽  
クニ方ツテモ、東京府ニ一種舊有ノ法アリテ、  
之ヲ審決スルヲアリトセンニ、新律綱領ノ條  
目ノ趣旨ニ違フ所ナケレハ、其法ヲ用フヘキ  
カ如シ、

蓋シ、古ヨリ今ニ至ルマデ、何國ト雖モ、此殊法ノ  
諸例ヲ其國法ヲ以テ括制スルヲ企テシナシ、

但之ヲ審判學ノ決スル所ニ任スルノミ、  
若夫然ラスシテ、牽強附會、肆ニ膠柱ノ斷ヲ為サ  
ントスル者ハ、其國民ト雖モ、之ニ服スル者ナカ  
ルヘシ、況ンヤ、交ヲ海外ニ開キテ、商ヲ他國ニ通  
スルニ方ツテ、彼民我民ト結フ所ノ約束ヲ遂行  
スルヲ聽サスンハ、彼是ノ民共ニ約束ヲ為スヲ  
危ミ、貿易ノ事隨テ嚴ムヘシ、

第三篇

國外不通法之事

又茲ニ法律アリ、之ヲ立ルノ國ニ非レハ、容認ス

ルヲ許サレズ、其類分テ二トナス、

其一擅制束縛ノ條例、

其二文明政府ノ容認スヘカラサル意見ニ  
基ケル典法、

凡ソ同國同治ノ民ニシテ、其属ヲ分チ、之ヲ別視  
シ、一属ノ民ノ受ル所ノ權ヲ、他属ノ民ニ受ルヲ  
許サスシテ、其志意ヲ制壓スルヲ務ル條例、之ヲ  
第一類ニ属ス、例スルニ、歐羅巴ノ某國ニ於テ如  
德亞教宗ノ人ニ土地ヲ有スルヲ禁シ、又某國ニ  
於テ天主教ヲ奉セサルノ民ニ、民權ヲ受ケシメ

サリシ如キ、即是ナリ、是等ノ法、之ヲ立ル國ノ外  
ニ出レハ、容認セラルヘカラス、

然レトモ、束縛ノ意ニ基クニ非スシテ、一是ニ民  
權ヲ有スルノ人ヲ保護スルカ為ニ、設クル所ノ  
條例ノ如キハ、此例ニ非ス、譬ハ、尚弱者ノ權分ヲ  
限ルノ法、婦女ヲシテ約束ヲ立テ、然後人ニ嫁セ  
シムル法例ノ如キ、即上ノ如ク、人ノ權理ヲ奪ヒ、  
可厭ノ別ヲ立ルカ為ニスルニ非レハ、何國ニ行  
クモ、容ラレサル所ナク、且其固有ノ法ト通用セ  
ラルヘシ、而ノ又一是ニ權策ニ出テ、阻遏ノ意ヲ

含メル法律ノ如キハ、他國ニ於テモ亦之ヲ容認  
スヘカラス、即褒功法ノ如キ其之ヲ許シ與フル  
國ニ在テハ、只發明者ノミ、製作專賣ノ權ヲ有ス  
レトモ、他國ノ民ニハ、此法ヲ及スヲ得サルヲ以  
テ、他國ノ民ハ、互ニ他人ノ發明スル所ノ物ヲ隨  
意ニ製造賣買スルヲ得ルカ如シ、

第二類、文明政府ノ容認スヘカラサル意見ニ基  
ケル典法トハ、例ハ都兎格ニ於テ、一夫多妻ヲ要  
ルヲ得、其典法亦之ヲ許スト雖トモ、合衆國審廳  
ニ於テハ、彼地ニ於テ結ヘル多婦ヲ娶ルノ約束

ヲ完成セシムルノ訟ヲ問治スヘカラサルカ如  
シ、是合衆國政教ノ意ニ悖ルヲ以テナリ、是故ニ  
亦外國ニ於テ賣奴ヲ購求スルノ約束ニ就キテ  
ノ案件ハ、合衆國審廳ノ處斷セサル所ナルカ如  
シ、

#### 第四篇

##### 權分之事

權分トハ、人ノ權ヲ受ケ、事ヲ行フノ分限ヲ指ス、  
夫人ノ奴タル者ハ、此奴、專ラ賣奴ヲ指、記念遺産ヲ受ケ、婚  
姻ヲ約シ、其他一切獨立シテ、義務ニ鞅掌スルヲ

得ス、故ニ之ヲ更ニ權ヲ受ケ事ヲ行フノ分限ヲ有セスト謂フ、尚弱者ハ、之ニ反シテ、權ヲ受ルノ分限ヲ有ス、故ニ記念遺産ヲ受ケ、田宅資産ヲ有スルヲ得、然レトモ、未タ專ニ事ヲ行フノ分限ヲ有セス、故ニ必須ノ需アルニ非レハ、人ト約束ヲ為シ、自ラ義務ニ執掌スルヲ得ス、是ヲ以テ之ヲ一半畫ル所ノ分限ヲ有ストイフ、

其國ニ於テハ、人ノ婦妻タル者、權ヲ受ケ、事ヲ行フノ分限甚畫リアリ、其有スル所ノ財産、盡ク夫ノ有タリ、且其夫ト偕フノ日ハ、如何ナル約束モ、人

ト結フ能ハス、又某國ニ在テハ、其財産ノ事ノミ、自ラ之ヲ擅ニスルヲ得、

凡、人一國ノ籍ニ入ルトキハ、他國ヨリ來ル人ト雖モ、關政、交衆ノ權ヲ受ルヲ得、又人已ニ籍ニ入り、且尚弱ヲ過レハ、權ヲ受ケ、事ヲ行フ、普通ノ分限ヲ有スルヲ得、

蓋シ法、人ニ權分ヲ授ルトキハ、亦之ニ義務ヲ課ス、即人一國ノ籍ニ入ルトキハ、其國法ヲ奉シ、其政府ヲ維持セサルヲ得ス、男女相婚スルトキハ、夫妻互ニ其權ヲ有シ、其義務ヲ負ヒ、夫ハ、必ス其

家族ヲ給養セサルヲ得ス、然ラサレハ、法之ヲ強  
ルカ如シ、之ヲ要スルニ、權分ノ字義ハ、左ノ二項  
ニ括束スヘシ、其一、權理、義務、其二、權ヲ受ケ、義務  
ニ執掌スルハ、能ハズ、是ナリ、而シテ此權理ト義務  
トハ、必ス豫有ノ事實、前行ノ原由ヨリ起ル、故ニ、  
奴隸ノ權分ヲ有スル克ハサルハ、其當奴ノ事實  
ヨリ來リ、尚弱者ノ本分相畫レルハ、其齡未タ成  
人ニ滿タサルノ事實ヨリ來リ、夫婦ノ權理、及義  
務ハ、婚媾ノ事實ヨリ來リ、入籍者ノ權理、義務ハ、  
其歸化、或ハ所生ノ事實ヨリ來ル、

蓋シ、以上ノ前行事實、人ノ本貫ノ地ニ於テ起リ、  
政府ニ於テ之ヲ法ニ合フト認ムルトキハ、則其  
從テ受ル所ノ權分、何國ニ到ルト雖モ之ヲ認テ、  
其人當有ノ權分ト做スヘシ、但前篇ニ載スル所  
ノ法ノ如キハ、此例ニ非ス、

按スルニ、米國ノ女、英人ニ嫁スルトキハ、即英  
人ノ妻タレハ、其財産ヲ有スルノ權ナシ、英國  
ノ法、夫其妻ノ有テ擅ニスルヲ得レハナリ、故  
ニ何ノ國ニ到ルト雖モ、此英夫ノ權分ヲ認テ、  
法ニ叶フトスヘシ、而テ夫ニ此權分アル者ハ、

即夫婦相婚スルノ事實ヨリ来リ、且其婚姻ノ  
法、英法ニ合ヘハナリ、然ルニ其夫、齡未タ成人  
ニ滿タサルカ、或ハ已ニ他女ヲ娶リテ妻トシ、  
一時ニ二女ヲ妻トセントスル如キハ、英國ノ  
法ニ叶ハサルヲ以テ之ヲ夫婦ト認メス、是ヲ  
以テ、他政府ニ於テモ、之ヲ夫婦ト識認セサル  
カ如シ、

### 法上關聯之事

法上關聯トハ、兩夥ノ人互ニ相充ル所ノ地位、隨  
テ互ニ負フ所ノ義務ヲ謂フ、例スルニ、甲人、乙人

ニ物ヲ典スル所ハ、典主典者ノ關聯生シ、又甲人、  
乙人ニ錢ヲ借ル所ハ、欠者債主ノ關聯生シ、甲人、  
乙人ニ償還スヘキノ義務ヲ負ヒ、男女相婚スル  
トキハ、夫婦ノ關聯生シ、夫ハ其妻ヲ養フノ義務  
ヲ負ヒ、妻ハ其夫ニ順フノ義務ヲ負カ如シ、其他  
父子主僕ノ關聯等類推スヘシ、而シテ此法上關聯  
ノ景況ニ從ヒ、各國ノ法、人ヲシテ互ニ其義務ヲ  
促シ、義務ヲ盡サシムルヲ許ス、蓋シ人ノ權分ハ、  
常ニ其國法ノ定ムル所、法上關聯ハ、多クハ互相  
ノ約束ヨリ成ル、故ニ甲ハ、專ラ其人本貫ノ國法

ニ關シ、乙ハ、或ハ此法ヲ以テ一概ニ斷スヘカラサルモノアリ、是ヲ以テ先此二語ノ義ヲ明ニシ、其法上ノ成果ヲ知ラスンハ有ヘカラス、

第五篇

本貫及住址之事

本貫及住址ノ二語其素羅馬律ヨリ傳來ス、而ノ住址ノ語ハ、今ニ至リ殆ト二千年、尚其義ヲ同クスレトモ、本貫ノ語ハ、已ニ其要義ヲ失ヒ、今ハ唯住址ノ義ト做シ用フルノミ、凡ノ羅馬ノ律ニ於テハ、人其所生ノ地ニ於テ其

被轄府ノ入籍人タリ、又住址ヲ得ルノ地ニ於テ、亦其被轄府ノ入籍人タリ、且人一府ノ籍ニ入レハ、其所生ト住址トニ係ラス、其人必ス其府ニ奉スヘキノ義務ヲ負ヘリ、租税ヲ納レ、軍役ニ赴キ、撰ミ任セラル、所ノ職ヲ務メ、府法ヲ遵守シ、府官ノ命令ニ順ハサルヲ得サリシカ如ク、而ノ人若シ何府ノ籍ニモ入ラサルトキハ、之ヲ認テ流民、又無籍ノ者ト為シ、其人ハ、乃チ入籍者ノ權分ヲ有スルヲ得ス、又人ト法上關聯ヲ約スルヲ得ス、何トナレハ、各人ノ權理ハ、其被轄府ノ法ニヨ



リテ之ヲ準度シ、之ニ勸從セシムヘク、又事ヲ行  
フノ能力モ、亦之ニヨリテ容認セラル、所ナレ  
ハ、流民ノ如キ其籍ノ属スヘキ所ナキモノハ、何  
ノ法モ其權分ヲ討求、準度スルヲ克ハサレハナ  
リ、  
蓋シ羅馬ノ世ニ在テハ、多人輻湊ノ都會ヲ名ケ  
テ之ヲ府トイヒ、府毎ニ一ノ獨立政府ヲ置キ、其  
法律ヲ立テ以テ属下ノ民ヲ治ム、其府ノ所轄ハ、  
帝ニ都會ノミニ畫ルニ非ス、周圍廣濶ノ土壤ヲ  
合シテ皆其所管トシ、凡ソ兵馬ヲ起シ、外國ト交

ル等ノ大事ニ非ルヨリハ、盡ク府官、自ラ之ヲ裁  
制スルノ特權ヲ有セルモノナイス、  
羅馬ノ共和政治、變シテ立君ノ世トナリ、未タ幾  
何ナラス、帝カリギュラ勅ヲ布キ、凡ソ羅馬統轄ニ  
属スルノ人民ハ、之ヲ國籍ニ入ルヘシト為ス、是  
ヨリ各人皆二回入籍ノ式ヲ行ハサルヲ得ス、即  
一回ハ、其被轄ノ府籍ニ入り、一回ハ羅馬ノ國籍  
ニ入ルナリ、因テ此帝大ニ史家ノ詆毀スル所ト  
ナル、然レモ、此事羅馬統國ノ法ヲ立ル一大初步  
ニシテ、後帝ジヨスチニアシニ至リ、之ヲ大成ス

ルノ基本トナレリ、米國ノ共和政治モ、亦羅馬置  
府ノ意ニ基キ、每邦各其主長ヲ置キ、以テ全邦ノ  
萬機ヲ督シ、閩國總政府ニ盟同スヘキ事件ノ外、  
皆特立裁制ス、而ノ入籍ノ法ニ至テハ、良之ヲ彌  
縫シ、三十餘邦ノ中、何邦ノ籍ニ入ルモ其人ハ、乃  
チ米國ノ入籍人トス、若シ外國ノ人、歸化籍ニ入  
ル者アレハ、亦何邦ノ籍ニ入ルモ、即之、米國人ト  
做シ、其人ハ、能ク其米國人タルノ權理ヲ受ケシ  
ムルナリ、

實子本貫傳子本貫之事

羅馬律ニ於テハ、凡ソ實子ノ本貫ハ、父ノ本貫ニ  
資リ、傳子ノ本貫ハ、母ノ本貫ニ資ル、故ニ實子生  
ル、ニ方ツテハ、當時父ノ入籍スル所ノ地ヲ其  
本貫トシ、野合ノ子ハ、其生ル、ニ方ツテ母ノ入  
籍スル所ノ地ヲ其本貫トス、若シ父母共ニ本貫  
ヲ有セサレハ、其子本貫ノ資ルヘキ所ナキヲ以  
テ、其子本貫ヲ有セストイフ、是其父母、之ニ資フ  
ヘキノ權ヲ有セサレハナリ、

入籍人人ニ同權ヲ與ウルヲ得ル事

凡ソ羅馬律ニ於テハ、其籍ニ入ル者、其本貫ノ法

ニヨリテ、唯其一身ニ權理ヲ受得ルノミナラス、  
法上關聯ノ故ニヨリテ、亦他人ニ其入籍者タル  
ノ權ヲ與ウルヲ得、故ニ婚配法上ニヨリテ、夫ノ  
本貫、妻ノ本貫トナリ、夫死スレハ、再ヒ其本貫ニ  
復ス、而シテ其夫ニ偕フノ間ハ、一切元始本貫ニ奉  
スヘキノ義務ヲ免ル、養父ノ本貫ハ、養子ノ本貫  
トナリ、己ニ成人シテ、父ノ轄軌ヲ放ルレハ、其  
所生本貫ニ復シ、奴主其奴ヲ放釋スレハ、主ノ本貫、  
奴ノ本貫トナリシカ如シ、

所生本貫擇住本貫之事

羅馬律ニ於テハ、入籍者二様ノ本貫ヲ得、所生本  
貫、擇住本貫是ナリ、所生本貫トハ、前已ニ言フ所  
ノ如ク、其生ル、所ノ本貫ナリ、人已ニ此本貫ヲ  
有スルハ、其擇ム所ニ行キ本貫ヲ求ムルヲ得、是  
其權分ノ來ル所ノ往前ノ事實ナリ、而シテ人此擇  
住本貫ヲ棄テ、他ニ行クモ、尚其所生本貫ヲ保  
ツヲ得タリ、今ノ米國歸化ノ法、亦是ニ似ル、他國  
ニ所生本貫ヲ有スル者來リ籍ニ入ルトキハ、即  
合衆國人タルヲ得ルナリ、  
羅馬律ニ於テ所謂擇住本貫トハ、己ニ權理ヲ得

ルノ能カヲ有スルノ人、其終身ノ住址ト為シ、其業ヲ營ミ、人ト法上關聯ヲ約スルノ本處ト定ムルカ為ニ、自ラ擇ミ移ルノ地ヲイフ、故ニ當時ニ在テ若シ人其之ニ隨ヒ行ク所ノ所生本貫ヲ有セサリシカ如キハ、其甲處ヲ去テヨリ、乙處ニ本貫ヲ得ルマテノ間ハ、猶飄然タル一流民ノ如ク、一切ノ權理ヲ失フヲ以テ、一日モ其心ヲ安シスルニ克ハサリシナルヘシ、

米國ノ法ニ於テハ、一旦國籍ニ入ル者ハ、其住址ヲ何邦中ニ有スル、有セサルヲ問ハス、常ニ合衆

國人タリ、蓋シ人ノ權分ハ、常ニ其人ニ隨行クヲ以テ、一邦ヲ去テ他邦ニ移住スルトキハ、能ク前邦ノ法ヲ棄ルヲ得ルト雖モ、其國法ノ賜フ所ノ權分ハ、之ト影從スルナリ、但擇住本貫ヲ得ルニ法アリ、人若シ自ラ好テ擇ミ移ルニ非レハ、之ヲ本貫ト為スヲ得ス、故ニ流人、囚徒等ノ如キ、其遷サル、所ノ地ハ、固ヨリ自ラ好ムテ行クニ非ス、強テ此ニ遣ラル、ヲ以テ、之ヲ本貫ト為スヲ得ス、又人其移リ行ク處ヲ、終生ノ住址ト定ムルニ非レハ、亦之ヲ其本貫ト為スヲ得ス、故ニ學徒、兵

卒、官人等ハ、繼令久ク一處ニ駐ルモ、此ヲ本貫ト  
為スヲ得ス、而シテ前ノ本貫ハ、依然ト之ヲ有スル  
ヲ得ヘシ、又家屋、土地ヲ有スルノ故ノミヲ以テ、  
其在ル處ヲ本貫ト為スヲ得ス、是其人後來果シ  
テ其處ニ永住スルヤ否ヤ、豫メ圖ルヘカラサレ  
ハナリ、  
上文載スル所ノ諸例ヲ照較シ、各民交際ノ上ニ  
於テ左ノ準則ヲ立ルヲ得、  
凡ハ人、一處ニ於テ住址ヲ受ケ得ルトキハ、自ラ  
出デハ、其處ハ地法ニ遵ハヘク、其約スル所ハ法

上關聯モ、固ヨリ亦其地ハ條例ニヨリテ審判セ  
ラルハ、所ニ甘從スヘシ、

右準則ハ、古ヨリ各國互ニ相容認スル所ナリ、然  
ルニ、日本ニ於テハ、各國ノ領事ヲシテ、擅ニ内外  
國民ノ際ニ起ル所ノ訟ヲ審判セシムルヲ以テ、  
全ク此則ヲ破ラレタルニ似タリ、蓋シ獨立國ノ  
最尊ノ所ハ、能ク其境内ニ令ヲ布キ、法ヲ行ヒ、若  
シ其法ヲ犯サントスル所ノ外民ハ、辭シテ之ヲ  
其國ニ入ラシメサルノ權ヲ持スルニ在リ、嗟呼  
夫、此權ヲ持重セスシテ、交ヲ外ニ結フ、何レノ國

ト雖モ、危キヲ免ルヘカラス、

第六篇

古法今法出訟之處ヲ異ニスル事

羅馬律ニ於テハ、凡ソ人、他人ト約束ヲ結ハント欲スルカ、或ハ其國法ノ利益ヲ被ラントスレハ、必ス其國籍ニ入ルヲ要セリ、今法ニ於テハ、内外ノ人ヲ問ハス、一樣ノ定限ヲ以テ其住址ヲ占メシメ、且一樣ノ法ヲ以テ其訟ヲ治ム、

又羅馬律ニ於テハ、一切約束ヨリ起ル所ノ訟ハ、其被告人ノ所生本貫、或ハ擇住本貫ノ訟庭ニ白

セサルヲ得ス、蓋シ此法ヲ立ルニ、四箇ノ理アリシナリ、

凡ソ人、皆其本貫ノ地官ニ聽従スヘキノ義務ヲ負フ、一ナリ、

被告人ノ所有物ヲ區處スルニ、最近易ナル、二ナリ、

見證人ヲ得ルニ、最容易ナル、三ナリ、

被告人本貫ノ法、其地ノ審司、他ノ審司ニ比スレハ、素ヨリ徹ク之ヲ了解スルノミナラス、法書ニ載セサル土地ノ習法ニヨリテ、約束ヨリ

起ルノ案件ヲ審判スルヲ殊ニ多キ、四ナリ、  
今法ニ於テハ、佛律ヲ除クノ外、身上案件ハ、必ス  
其人ニ影後ス、故ニ被告人國ヲ去レハ、其告狀隨  
ヒ行ク、或ハ何ノ國ヲ問ハス、其財産ヲ遺ス所ノ  
地ニ行ク、是其之ヲ抄收シ易キニヨルナリ、蓋シ  
被告者、若シ真ニ債ヲ負ヒ、或ハ約ニ背クニヨリ  
テ、損失ヲ賠補スヘキニアタツテハ、縱令出テ他  
國ニ奔ルモ、其責ヲ免ルヘカラス、其義務ハ、必ス  
影後スルヲ猶本國ニ在ルカ如シ、然ルニ、古法ノ  
如ク、原告人ヲメ必シモ被告人本貫ノ訟庭ニ控

白セシムヘシトスルトキハ、其欠者、若シ外國ノ  
民タレハ、債主行テ其國ノ訟庭ニ控告セサルヲ  
得ス、當時其人、若シ他ニ行クニアレハ、其歸ルヲ  
俟サルヲ得ス、是甚理ニ當ラサルナリ、殊ニ其告  
狀、始メ欠者、債主カ住址ノ地ニ於テ之ヲ償還ス  
ルノ約束ヨリシテ、起ルカ如キニ於テハ、最不便  
ト為ス、之ニ反シテ、又一切ノ欠者ヲ扣メテ國外  
ニ出ルヲ得サラシムルモ、亦等ク理ニ當ラスト  
ス、故ニ之ヲシテ、其好ム所ニ行カシムヘシ、但其  
義務、其行ク所ニ隨カハシムヘシ、蓋シ羅馬人ノ

原告人ヲメ、被告人本貫ノ訟庭ニ控白セシメシ  
ハ、唯上ニ載スル四條ノ理アリシノミナラス、尚  
且當時ノ勢、已ムヲ得サルニ出シナリ、抑羅馬ノ  
國タル、專ラ他國ヲ侵畧シ、疆土ヲ擴メントヲ務  
メシカハ、其統下諸國ノ民、他國ノ民ト商ヲ通  
シ、婚ヲ結フヲ好マス、殊ニ其共和政治ノ世ニ在  
テハ、關政ノ士、專ラ深ク思フ此ニ注キタリ、故ニ  
其厄勒ニ勝ツノ後ハ、厄民ヲ禁シテ、羅民ト貿遷  
婚娶ヲ為サシメサリシ、是其之ニヨリテ、統下諸  
府ノ民、相合同シテ本國ニ反スルヲ恐レシナリ、

故ニ又其法ニ於テハ、凡ソ男子、本貫ノ地ヲ去テ、  
他國ニ之クトキハ、其羈駐ノ日短シト雖モ、其本  
貫ニ有スル所ノ財産ヲ失フノ虞ナキ克ハズ、又  
人、若シ有主ニ非ル者ヨリ財産ヲ獲ルト雖モ、其  
之ヲ獲ルノ道正シケレハ、之ヲ收把スル一年ノ  
後ハ、斷然ト籍有スルヲ得タリキ、

按スルニ、譬ハ人アリ、羅馬ヲ去テ他國ニ之キ、  
其財産ヲ國ニ遺サシニ、其親戚朋友、之ヲ他人  
ニ附與シ、或ハ鬻賣スルトキハ、其之ヲ受ケ、或  
ハ買フ所ノ人、一年ヲ經ルノ後ハ、縱令本主ヨ



リ、元價ヲ以テ賣還センコトヲ要スルモ、己カ心ニ欲セサルトキハ、之ヲ否ムヲ得、又本主、其由ヲ訟庭ニ控白スルモ、法ニ於テ新有主ヨリ之ヲ奪フヲ得サリシナリ、

又他國ヨリ歸ル者ハ、其財産ヲ彼所ニ遺シ置クヲ得ス、是等ノ法、皆其國人ノ軍役等ヲ免レンカ爲ニ、他國ニ奔ルヲ防クノ策ナリシ、  
彼佛帝那破翁カ建法モ、亦此意見ニ基キ、一切身上案件ハ、必ス被告人本貫ノ訟庭ニ控白セシム、且人單ニ他人ノ財ヲ把持セルノミニシテ、之ヲ

其有主タルノ證ト定ム、嗟呼夫、法ヲ立ル此ノ如キ、何國カ盛大通商ノ國タルヲ得ンヤ、是ヲ以テ、他ノ歐洲諸國ニ於テハ、身上案件ハ、必ス其人ニ隨ヒ行クモノトナス、乃チ米國ニ於テモ、之ヲ應用スル所以ナリ、

### 第七篇

#### 入國遵法之事

今英國ノ人、佛國ニ於テ某事ヲ完成スヘキノ約束ヲ人ト結フトキハ、其始、特異ノ約アルニ非レハ、其英人言ハスシテ、右約束ニ就キテノ權利ハ

佛法ニ依テ管理セラル、ヲ期スルナリ、米人、  
育ニ在リ、日本ニ於テ經紀スル所ノ商事ニ加入  
スルトキハ、其人、亦其商事ニ就キテハ、日本國法  
ニ服従スヘキハ、固リナリ、又日本ノ女、英國ニ本  
貫ヲ有セル英人ニ嫁スルトキハ、婦ノ本貫ハ、夫  
ノ本貫ヲ取ルノ通法ニヨリ、且其配合ノ契約、彼  
地ニ於テ完成スヘキヲ以テ、其女ハ、則英國ノ法  
ニ從フヘシトス、又英國ノ女、日本ニ本貫ヲ有セ  
ル日本人ヲ其夫ト為ストキハ、其已ノ權利ヲ準  
度スルニ方テハ、日本國法ニ從フヘク、再ヒ英法

ヲ引テ、已ヲ保護スルノ料ト為スヲ得ス、若シ其  
女、英國訟庭ニ控白スルヲアラシニ、其審司、必ス  
斷シテ曰シ、汝ノ本貫、已ニ汝ノ夫ノ本貫ニ在リ、  
故ニ其本貫ノ地法ニ從ヒ、且其俗習ニ循ハサル  
ヲ得スト、

帝夫、此例ノミナラス、或ハ日本ノ人、英國ニ到リ、  
或ハ英國人、日本ニ来リ、其住址ヲ占ルアルヘ  
シ、之ヲ律スルニ、左ノ一凡ノ規則アリ、宜ク之ヲ  
守ラサルヘカラス、  
凡ハ人、其郷土ヲ去リ、他國ニ行キ、其國法ニ委服

スルニ於テハ、能ク其将来ハ關聯ヲ變シ、且其郷  
土ハ法ト異ナル所ハ法ニヨリテ管理セラレハ  
ヲ得ヘシ。

按スルニ、已ニ歸化シテ其國ノ籍ニ入レハ、其  
國土ノ法ニ從フヘキハ、固リナレトモ、本文ノ  
如ク、其籍ニ入ルノ式ヲ行ハサルモ、其住址ト  
為スーキハ、其地ノ法ニ從ハサルヲ得サルヲ  
云フナリ。

右件諸例ハ、各國互ニ相認容スル所ナリ然ルニ、  
日本ニ於テ各國領事等ニ審判ノ權ヲ許スハ、則

外邦國權ヲ日本境土ノ上ニ施行セシムルモノ  
トイフヘシ、夫此ノ如クニシテ、其國土ニ住スル  
外國ノ民ヲシテ、出テ其法ニ服從セシメンヲ討  
ル、豈難シト為サ、ランヤ、

噫呼夫、日本ノ國、外國ト兄弟ノ交義ヲ結ハ、宜  
ク雙方同等ノ條約ヲ以テスヘシ、然ルニ、今ノ如  
ク日本ノ人、他國ニ到ルトキハ、其地ノ法ニ遵ハ  
サルヲ得ス、他國ノ人、日本ニ來ルトキハ、各其本  
國ノ法ヲ主張セシムルハ、國威ヲ落シ、汚辱ヲ蒙  
ルノ甚シキモノニシテ、彼等カ他國ノ政權ヲ犯

萬國通商法 卷一 耶  
ス、凌虐侮慢、亦極ルトイフヘシ

第八篇

浮財實產之事

各國殊法ノ論アルヨリ、人ノ浮財實產ニ就キ、又殊異ノ律アリ、夫實產、又不可動物トハ、土地、及其上ニ立ツ所ノ家屋、樹石、及其墾闢、修好ノ勞費等ヲ合稱ス、浮財、又可動物トハ、商貨、證券、金錢、家什等、一切人ニ隨テ搬運スヘク、且其有主ノ為ニ、多少ノ利益ヲ致ス者ヲ合稱ス、

日耳曼ニ於テハ、其始、浮財、實產ヲ律スルノ法、畫

然ト別アリ、英、米兩國ニ於テハ、仍之ヲ應用ス、即實產ハ、其所在ノ地法ニヨリテ之ヲ管理シ、浮財ハ、其有主所住ノ地法ニヨリテ之ヲ管理スヘシトスルナリ、

近世日耳曼ノ法書ヲ著ス者ノ中、一切此區別ヲ廢シ、其可不可動タルヲ問ハス、凡ソ人ノ財産ハ、有主住址ノ地法ニヨリテ、之ヲ管理スヘシトイフノ說ヲ主張スル者アリ、學者亦往々此說ニ左袒スル者多シ、而ノ其交付遺傳ニ至リ、前ノ如ク、可不可動ノ別ヲ立ルヲ好トスルノ流徒ニ至テ

ハ、異説百出スト雖モ未タ其確實ノ理ヲ論窮スル者ナシ、請フ一例ヲ引テ、其是非ヲ辯セン、例ハ、佛國ニ住スル日本人、其死ニ濱スルヲ慮リ、其日本ニ有スル所ノ浮財、實產ヲ人ニ分與セント欲センニ、凡ソ浮財ハ、其有主ノ最後ニ居住セル地ノ法ニヨリテ處置スルヲ、各國ノ允肯スル所トスレハ、即佛律ニ從テ其分與ノ遺書ヲ立テハ、足レリトスト雖モ、彼兩物ノ間ニ別ヲ立ルノ説ニ依レハ、其實產ノ分與ニ至テハ、日本國ノ式ニ依ラザルベカラストスヘシ、此ノ如キハ、其紛煩ナ

ル、實際ニ行フニ便ナラス、故ニ此區別ヲ去テ、盡ク其人住址ノ地法ニヨリテ、之ヲ管理スルトキハ、其究簡易ニシテ、且精確ナリトス、蓋シ法ノ有主ニ賜フ所ノ特恩ハ、其欲スル時ニ方ツテ、隨意ニ財產ヲ他人ニ交付セシムルノ權ニ在リトス、而ソ有主ノ賣券、遺書等ハ、唯其物ヲ分テ人ニ與フルノ證ノミ、故ニ其券書ヲ立ルノ法式ニ至テハ、單ニ券書中ニ載スル所ノ分與ノ意思ヲ保スル者トセハ、素大關係ノ事ニ非シ、且其住址ノ法ニ從テ之ヲ立シニハ、固ヨリ盡ク其

知ル所ヲ盡スヘキヲ以テ、更ニ其餘ヲ問フヲ要  
セサルヘシ、然トモ、茲ニ兩物交付ノ間ニ區別ヲ  
立ルハ、尚多國ニ之アリ、說者ノ論得失相若ク讀  
者宜ク後ノ數篇ヲ翫味シ、以テ其正ニ就クヘシ、

萬國通私法卷上終